

# 年間キーワード（つながる・つなげる）

## 1 教育方針・教育理念

日本国憲法・教育基本法等関係法令及び県・市の教育方針を踏まえ、教育の中心に子どもを据え、ふるさとに誇りを持ち、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな子どもを育成する。そこで私たちはふるさと奈留島にこだわり、奈留島だからできる教育を推進する。そして、予測困難な未来を生き抜く力と将来ふるさとに貢献する人材の育成を目指す。

## 2 校訓 「なせばなる」

健康でたくましく他者と協力して自分の持つ可能性へ挑戦する生徒を育成する。

「なせば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」<sup>うえすぎやうざん</sup>上杉鷹山

## 3 学校経営の基本方針

- (1) 奈留島の地域力と小中高一貫教育の特性を生かし、体験活動を通して人前力（人とつながる力、人と人をつなげる力）の育成を図る。
  - ・ふるさと教育の充実（ふるさと教育・キャリア教育コーディネーター）
  - ・小中高一貫教育の強みを生かした縦割り活動の充実（三大行事）
  - ・地域との合同体育大会の実施
- (2) 「あいさつの徹底」
  - ・『相手に気持ちを伝えるあいさつ』の指導を徹底する。
- (3) 「学力向上・授業改善」
  - ・特別支援教育の視点に立った教育活動の充実を図る。
  - ・各種学力調査の結果を基に、個々に応じた学力向上の対策を行う。
  - ・道徳教育の充実を図る。
- (4) 「粘り強く取り組む力の育成」
  - ・社会をたくましく生きていくための基礎となる「体力・耐力・態力」の向上を図る。
- (5) 「多様な他者との協働」
  - ・「みんな違ってみんないい」相手のことを思いやり、違いを個性、多様性として認め、いじめや差別のない、子どもが安心して学べる居場所づくりを行う。
- (6) 「協働し、働きがいのある職場づくり」
  - ・互いが相手を思いやる気持ちを持つ。小中それぞれの違いを認め合い、互いの意見を尊重しながら協力して業務を遂行する。誰でもできる仕事、誰がしてもよい仕事に気づき進んで取り組む。また、チームとして奈留小中の誰からも不祥事を起こさせない。一人の不祥事が隣人の人生を変える。
- (7) 環境・美化
  - ・雑然としたなかで教育活動はできない。教育活動に適した「人、もの、自然」の環境整備に努める。教師用トイレの清掃の徹底。

#### 4 教育目標

##### 夢・実現

～ふるさとを愛し、皆と協力して夢の実現に向けて努力する「奈っ自慢子」の育成～

##### (1) めざす生徒像（奈っ自慢子）

ふるさとを愛し、ふるさとに貢献できる人材を育成するために

- ①人との関わりを大切にし、思いやりの心で行動できる子ども（徳）
- ②自ら学び、自信を持って自己表現のできる子ども（知）
- ③健康でたくましく、粘り強く取り組む子ども（体）

##### (2) めざす学校像

ふるさととともにある学校として

- ①笑顔あふれる楽しい学校
- ②相手に気持ちを伝えるあいさつができる学校
- ③切磋琢磨し、高め合う学校

##### (3) めざす職員像

奈留小中学校の職員として情熱と愛情（率先垂範）

- ①信頼される職員
- ②わかる授業を実践できる職員
- ③違いを認め合い、互いを尊重してチームに貢献できる職員

##### (4) 育成をめざす資質・能力

- ①つながる力・人と人をつなげる力『人前力』（思考力・判断力・表現力）

自分の考えを根拠をもとに筋道を立てて表現し、他の人の考えや思いを理解しながら、主体的に人と関わることができる。

前期（小1～小4）「自分から」 中期（小5～中1）「認める」 後期（中2、中3）「協働」

- ②わかる力『実行力』（知識・技能）

自ら課題を見つけ、計画的・主体的に解決することで、目標達成を果たすことができる。

前期（小1～小4）「気づく」 中期（小5～中1）「考える」 後期（中2、中3）「動く」

③えがく力『貢献力』（学びに向かう力・人間性等）

社会に関する視野を広げながら、自らの生き方や望ましい職業観・勤労観を思描き、自らの適性を理解した上で、見通しをもって生活することができる。

前期（小1～小4）「あこがれ（モデリング）」 中期（小5～中1）「夢（人生の願い）」  
後期（中2、中3）「志（人のため）」

④体力・耐力・態力

社会をたくましく生きていくための基礎となる力  
体力、耐力（我慢する力）、態力（姿勢などきちんと正す力）

5 具体的な努力目標・具体的実践事項

(1) 教科等の指導

期	努力目標	具体的実践事項
1 教科 指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善を図る。</li> <li>○基礎基本の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践を行う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあての提示の工夫と、見通しを持たせる授業（主体的学び）子供が学ぶ意欲や必然性を感じるめあて</li> <li>・学習規律の確立と言語活動の充実（話し合い活動）（説明場面の意図的設定と「伝える力」の育成） 「理解できたら説明できる。説明したら理解が深まる。」 双方向や1往復半のコミュニケーション（対話的学び）</li> <li>・5分間の振り返りの時間の確保</li> </ul> </li> <li>②各種調査の結果をもとにした「基礎タイム」「リスタイム」による継続した改善サイクルの活用（学び直し）</li> <li>③家庭学習の習慣化とその充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業との関連づけた取組</li> <li>・各種調査の結果分析を踏まえた課題提示</li> <li>・コンテスト等の取組</li> </ul> </li> </ul>
2 奈留 ・ 実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中高一貫教育の強みを生かし、人間力の向上を図る。</li> <li>○予測困難な社会で生きるための、学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①系統化された小中高のカリキュラム全体図を元にした授業づくりと、3つの力の育成</li> <li>②縦割り活動を生かした体験活動の実践</li> <li>③地域人材の効果的な活用</li> <li>④ふるさと教育・キャリア教育コーディネーターの設置</li> </ul>

(2) 教科等以外の指導

期	努力目標	具体的実践事項
1 道徳教育	○学校教育全体を通じて、「思いやり」(重点内容項目)を身に付け、道徳的実践力の向上を図る。	①「 <b>考え議論する</b> 」道徳授業の研究と実践(全職員で授業研究を行う。) ②差別やいじめをしない、させない指導 ③道徳の指導と家庭との連携(学級通信等の情報発信) ④掲示教育による啓発
2 生徒指導	○自己有用感を持つ子どもの育成 ・即時・同一・継続 ・危機管理の「さしすせそ」(最悪・慎重・素早く・誠意・組織)	①問題行動の未然防止と発生時の適切な対応 ・電話連絡や家庭訪問・定期的な教育相談(信頼関係の構築)「スピード対応で誠意を示す」 ②「相手に気持ちを伝えるあいさつ」の推進 ③小中合同主任のもとで、情報共有及び指導方針の統一を図る。 ④今年度から制服・通学かばんの変更
3 特別活動	○各種行事に積極的に参加し、自主的活動力やコミュニケーション能力の高揚を図る。  ○児童生徒会活動を活性化	①「子どもは行事で育つ」を念頭においた達成感と自己有用感を味わわせる意図的指導(人前力の育成) ・縦割り活動を活用する。 ②委員会活動の充実と自治意識の高揚により所属感、自己有用感の醸成
4 進路指導	○系統的・計画的な進路指導を充実させ、生き方を考える指導を行う。	①教師が夢を語り、子どもにあこがれ・夢を持たせ、人のためという志に高める指導(貢献力の育成) ②『 <b>奈留・実践</b> 』「あすなる」の充実 ③ふるさと教育・キャリア教育コーディネーターの設置
5 健康・安全	○安全指導と事故防止対策を十分に行い、安全で安心な学校づくりを図る。  ○たくましい心と体を育成する部活動指導の推進	①新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底 ②アレルギー児童・生徒への対応と、マニュアルを意識した生命尊重の徹底 ③危機管理と安全管理の徹底 ④養護教諭や学校栄養職員との連携を密にした健康管理 ⑤ガイドラインの遵守(部活動の目的は人間形成)体力・耐力・態力の向上
6 環境教育	○言語環境を含めた、学ぶにふさわしい環境づくりに努める。 ○心を磨く清掃を目指し、師弟同汗で美しい校舎を維持する。	①美しい言語環境づくり ②朝読書の充実と読書の習慣化 ③効果的な掲示教育の実践 ④師弟同汗による勤労意欲の向上 職員トイレ・更衣室の清掃の徹底 ⑤落ちていたゴミ等に気づき、拾って捨てることのできる子どもの育成 ⑥園芸活動による豊かな心の育成
7 人権・平和	○考えの違う他者やマイノリティを受け入れ、差別、いじめを根絶し、一人一人が互いを認め合い、尊重し合いながら自己実現を図る子どもの育成を図る。	①人権・なかよし集会、平和集会の充実 ②自分とは違う多様な存在に気づかせる指導を通して、差別やいじめを絶対許さないという強い姿勢及び多様性を尊重する態度の育成 ③しま留学生の受け入れによる多様性の醸成

(3) 学校運営に関すること

種	努力目標	具体的実践事項
1 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>①当事者意識を持った経営参画</li> <li>②同僚性を発揮する校務分掌</li> <li>③無駄のない予算執行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①企画委員会の充実</li> <li>②小中の違いを互いに理解し、異校種の意見を尊重しながら、協力して業務を遂行する。</li> <li>③各分掌の担当は、教頭及び異校種の同分掌担当と必ず協議して起案する。また、生徒指導やパワハラ・セクハラ等緊急を要する案件以外は、直接校長に相談する前に教頭に必ず報告し指導を仰ぐこと。 ・各分掌における目標を立てる。</li> <li>④安全点検実施による安全・安心な施設・設備の管理 「予算」「備品は財産」という意識を持った物品購入等</li> </ul>
2 校内研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中高一貫教育研究を図り、指導力の向上を図る。</li> <li>○互いに学び合う校内研修</li> <li>○初任研等経年研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①3大行事を中心とした人間力の育成</li> <li>②中高の教科部会を中心とした学力向上への取組</li> <li>③道徳の授業改善を全職員で行う。</li> <li>④プログラミング教育の充実</li> <li>⑤約半数が研修のファーストステージである。共に切磋琢磨しながらも、協力できるところはみんなできちんと支え合って充実した研修にしていく。</li> </ul>
3 家庭地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域とともにある学校づくりの推進</li> <li>・家庭・地域との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①愛育会（PTA活動）の活性化 あいさつ運動の活性化</li> <li>②学校便り・学級便り（目標：月1発行）</li> <li>③地域人材を生かした教育活動と地域に出て行く教育活動</li> <li>④しま留学生・しま親への支援</li> </ul>

7 その他

- ・どんなに学力がついても、体力がついても、これからの予測困難な時代を一人では生き抜くことはできない。「時には人を頼り、時には人に手を差し伸べる。」人とつながる力、人と人をつなげる力の育成に全力で取り組む。
- ・学び続ける教師でありたい。